

# 明日を拓く企業の戦略

成長する企業には独自の戦略がある。企業の今を、そしてこれからの未来を、そしてこれからの未来を創るその戦略に迫る



300人が入れる多機能ホール。期首に行う経営方針説明会や年始式のほか、年2回実施している研究部門と油脂開発部門の研究発表や商品説明会、顧客向けのセミナーや健康教室などにも使う予定。通常は社員の食堂として使用。部署間のコミュニケーションを深める場にもなっている

## 備前化成(株)

### 独自の技術で健康食品の市場を切り拓く

健康食品の概念すらなかった時代に、天然ビタミンEから出発し、自然素材・自然の力を生かした製品づくりで、自然素材・自然の力を生かした製品づくりにより、健康食品(サプリメント)のパイオニアとして発展してきた備前化成(株)。「独自の技術で新たな価値を創造し、人々の健康を支える」というミッションを掲げる清水富江代表取締役社長に話を聞いた。



聞き手・執筆 井ノ上美恵子 (フリーアナウンサー)

#### 「健康に生きる」ことを礎に

備前化成(株)は、現社長の清水富江氏の父にあたる石原隆文氏が、昭和39年にビタミンE市場の将来性を見込んで事業を興したことが始まりである。まだ日本では健康食品という概念すらなかった時代、石原氏はアメリカでサプリメントを学び、大豆の胚芽から抽出するビタミンEの製造ノウハウ、権利を譲り受け、日本での展開を目指した。

大学の専門家を訪ねて自然素材の抽出方法を学び、抽出機械を自ら手作りし、全国行脚し製品を売って歩いた。石原氏がサプリメントという市場を切り拓こうとしたのは、競争によるシベリアでの厳しい抑留経験がある。「健康

に生きる」という、当たり前にも思えることの大切さを痛感したことが、その後の同社の礎となってきた。

天然ビタミンEの需要急増に伴い、昭和46年に備前化成(株)を設立、試行錯誤を重ね昭和50年に栄養補助食品「ビタポールE」を発売した。しかし当時、厚生労働省はカプセル剤を食品として認めておらず、やむを得ず農林水産省に調味料として販売を認めってもらうことになる。開発者にとっては忸怩たる思いもあったが、当時の製品に「調味料」の表示がなされていることは、図らずも同社の先進性を如実に示していると言える。

その後も技術開発を進め、ビタミンEにおいては98%程度の高濃度まで高める技術を獲得する。牡蠣やニンニク、グアバなどの自然素材からのエキス抽出技術の開発や、抽出・精製技術の高度化によるDHA・EPA(エイコサペンタエン酸)の開発、医薬品原体への本格展開を果たしてきた。

#### 社員の結束力で社業発展

しかし、平成18年頃に、同社も使用していた原材料アガリクスに発がん性があるという誤った報道が流れる。これをきっかけとした風評被害が瞬く間にサプリメント業界全体に波及し、同社も売り上げを急激に落としてしまった。

創業以来の危機となったが、清水氏は「特効薬のような解決策なんてない。みんなで考えよう、みんなでチャレンジしよう」と社内に呼び掛ける。清水氏をはじめ従業員を奮起させたのは、「一人々の健康に役立つ製品を作りたい」という創業者の想いと、サプリメントの正しい理解を広げるため業界を先導してきた自負であった。地道な営業努力が徐々に実り同社の業績はようやく回復基調に乗る。この危機は、結果として社員の結束力を生むこととなった。平成22年頃にはジェネリック医薬品事業にも参入、共同開発を行っていた大手企業からEPA事業譲渡を受け、最終原薬メーカーとしても歩み始める。

平成28年に社長に就任した清水氏は、「今後業界で生き残るには、独自の原料や新たな技術を生むことが必要だ」と強く決意する。以降、機能成分を消化管の目的部位で溶出させる錠剤技術「B・ReC」、オーラルケア機能を持つ成分を口腔内に長く滞留させる顆粒化技術「B・MoG」、そして独自の「錠剤処方」「粒子設計」「マイクロレイヤリング(薄膜コーティング)技術」の3つの技法を組み合わせ、機

#### 「共創営業」で研究開発企業として進化

同社は今年1月、新たに建設した社屋に点在していた部門をまとめた。部門間の連携強化と社員同士のコミュニケーションの推進が目的で、その背景には、清水氏が掲げる「共創営業」という大きな目標がある。

お客様と共に考え、ともに創り上げることの意味する「共創営業」。今、お客様のニーズは多様化・高度化しており、そのニーズに応えるためには、お客様と共に作り上げるというスタンスが必要となる。ニーズをくみ取る営業部門、それを形にする開発、製造部門、信頼を担保する品質部門などの連携が欠かせない。

清水氏には、かつて危機を脱した時のように、社員の結束力こそが会社を発展させる原動力になるとの確信がある。「異なる部署の社員同士が社員食堂で語らっている姿を見ると、決断して良かったと思うんです」と清水氏は目を細める。

また、アジアを中心とした海外展開も見据える。独自の特許発酵技術でニンニクの機能成分SAC(S-アリスチン)を抽出・濃縮することに成功したサプリメント素材の品質は世界最高峰の水準であり、この新製品を主軸に海外の展示会にも出展し、国内市場のみならず、海外市場への進出を目指している。備前化成(株)は世の中に新しい製品を生み出す研究開発企業として更に進化を続けていく。



開発実験室や高いクリーンレベルの試作室が設置されている新社屋1階に配置された研究開発部門。一新された分析機器などを使って新しい製品製造のための研究に取り組む。BIZENITECHNOLOGYと称した独自の高い製剤技術で製品を開発



創業者の石原隆文氏が日本には健康食品という概念すらなかった時代にアメリカで健康食品について学び、昭和50年に製品化した天然ビタミンE配合の栄養補助食品。当時、大きな話題となる。この製品からサプリメントのバイオニアとしての歴史が始まる



平成28年、代表取締役社長に就任。父である創業者の石原隆文氏の志を継ぎ特に研究開発に力を注ぐ。高齢化の進行も踏まえ「健康寿命を延ばす健康食品にも力を入れたい」と展望を語る



本社 赤磐市徳富363  
事業内容 医薬品(医療用医薬品の原薬、一般用医薬品)・医薬部外品・健康食品素材・健康食品の製造販売  
代表者 清水 富江 創業 昭和46年(1971年)  
資本金 5,000万円